



ナノキャリア株式会社

東証マザーズ 4571

 **NanoCarrier®**

薬の未来を創造する

2013年11月21日(木) 札幌
証券新聞社主催

最先端のポリマー技術を用いた
革新的ナノメディスンカンパニー

豊富ながん領域パイプライン

ナノ技術を用いた新展開

ナノキャリアの目指すもの

グローバル製薬企業を目指し、
患者さんのQOL (Quality of Life) 向上を目標に、
新しい製品の開発を推進しています

MISSION

ミセル化ナノ粒子技術を用いて革新的な医薬品を創出し、人々の健康とQOLの向上に貢献します

VISION

イノベーションファーマとして、世の中に必要とされる
「ファーストワン」を目指します

会社概要

4

所在地	本社/研究所	〒277-0882 千葉県柏市柏の葉五丁目4番地19
	東京オフィス	〒103-0027 東京都中央区日本橋三丁目2番2号 八重洲ヤマガタビル
設立	1996年6月14日	
上場市場、及び年月日	東京証券取引所マザーズ 上場 2008年3月5日	
資本金	9,983百万円 (2013年10月31日現在)	
発行済株式総数	397,952株 (2013年10月31日現在)	
役職員	従業員41名、取締役8名、監査役3名、合計52名 (2013年10月31日現在)	
取締役	代表取締役社長CEO	中富 一郎
	CBO兼事業開発部長	花田 博幸 (元生化学工業 研究開発担当執行役員)
	CSO	加藤 泰己 (元協和発酵 製剤研究所所長)
	CFO兼社長室長	中塚 琢磨 (元日本シェーリング 常務取締役)
	非常勤取締役	岡野 光夫 (東京女子医大教授)
		大橋 彰 (医師 クリニック院長)
		松村 淳 (ウィズ・パートナーズ 代表取締役副社長)
		飯野 智 (ウィズ・パートナーズ SMD 兼 投資運用部長)
監査役	常勤監査役	野口 勘四郎 (元化合物安全性研究所 常務取締役総務部長)
	非常勤監査役	森嶋 正 (森嶋公認会計士事務所 代表 公認会計士)
		古田 利雄 (クレア法律事務所 代表社員弁護士)
アドバイザー	藤澤 朋行 (ウィズ・パートナーズ MD、元武田薬品工業 研究アライアンス室長)	
サイエンティフィック アドバイザー	片岡 一則 (東京大学大学院教授)	
	長崎 幸夫 (筑波大学大学院教授)	
	西山 伸宏 (東京工業大学大学院教授)	

株式情報

5

大株主

※2013年9月末現在

株主	保有数	保有率 (%)
ウィズ・ヘルスケアPE1号投資事業有限責任組合	39,137	10.74
信越化学工業株式会社	24,000	6.59
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	21,247	5.83
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	11,557	3.17
中富 一郎	11,250	3.09
興和株式会社	11,000	3.02
CYNTEC CO., LTD. (OEP社の子会社)	6,232	1.71
資産管理サービス信託銀行株式会社	6,025	1.65
松井証券株式会社	5,611	1.54
岡野 光夫	2,882	0.79
上位10名合計	138,941	38.13
発行済株式総数	364,352	-

株主数:

18,000名(3月末)⇒23,442名(9月末)

9月末以降の大株主の保有数及び発行済株式総数の変動

10月中

◆グローバルオファリング実施

33,600株 国内及び海外における新株発行

- ・国内:3,000株(うち、信越化学工業(株) 2,600株取得)
- ・海外:30,600株

8,400株 海外売出し

- ・ウィズ・ヘルスケアPE1号投資事業有限責任組合
7,700株売却

- ・シーエスケイブイシー技術革新成長支援ファンド投資事業
有限責任組合 700株売却



10月末時点

◆大株主の株数変更

ウィズ・ヘルスケアPE1号投資事業有限責任組合

31,437株(7.90%)

信越化学工業(株)

26,600株(6.68%)

◆発行済株式総数の増加

364,352株(9月末)⇒ 397,952株(10月末)

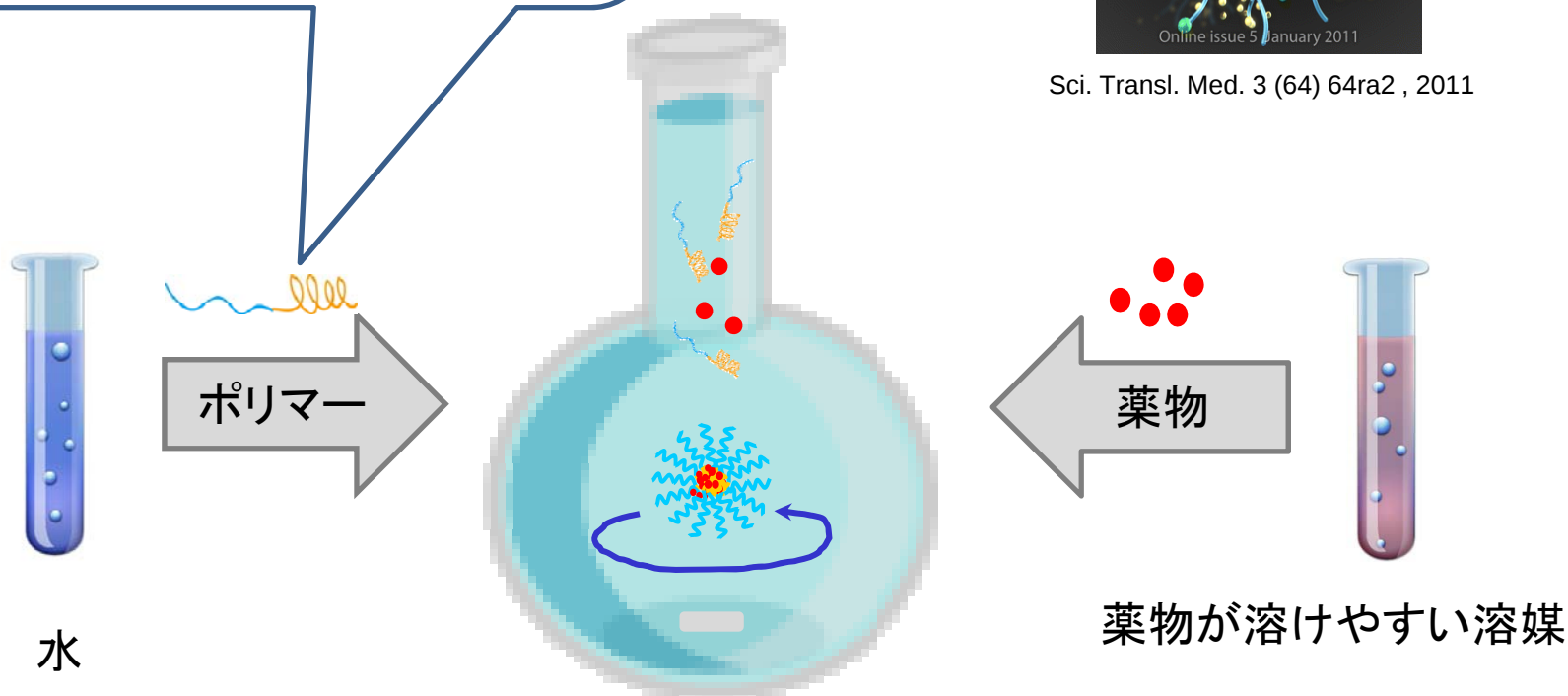
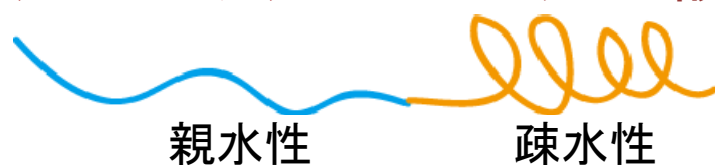
コア技術:ミセル化ナノ粒子



ミセル化ナノ粒子の調製法

ブロック・コポリマー

ポリエチレングリコール ポリアミノ酸



Sci. Transl. Med. 3 (64) 64ra2, 2011

自己会合により、簡単にミセル化することができます

ミセル化ナノ粒子の特徴

既に薬効が確認されている医薬品（POC医薬品）を、最先端ポリマー技術（ミセル化ナノ粒子技術）を用いてナノメディスン化することで医薬品の高付加価値化を図り、患者さんのQuality Of Lifeを改善

医薬品の 高付加価値化

- 放出制御
薬物放出をコントロール
- ターゲティング
病巣部位に伝達
- Bioavailability¹の向上
難溶性薬物の可溶化

患者さんの Quality Of Lifeを改善

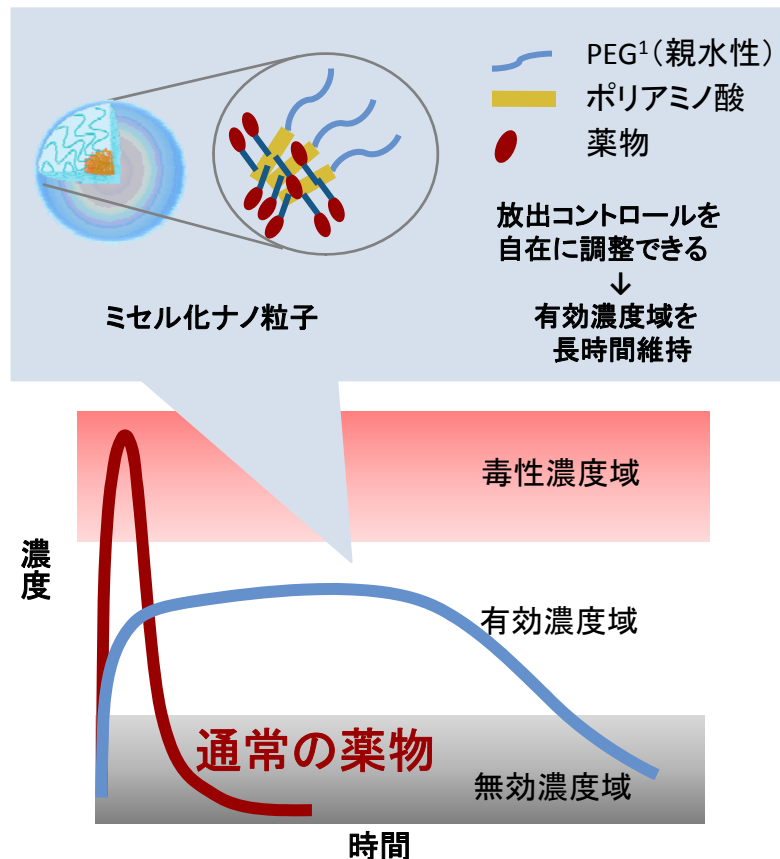
- 治療効果増大
対象細胞への薬物送達
- 副作用軽減
薬物放出コントロールによる
毒性軽減
- 利便性改善
入院不要、副作用対策軽減、
医療費削減にも寄与

注：¹Bioavailability:生物学的利用能：投与された薬物が、どれだけ全身循環血中に到達し作用するかの指標

放出制御とターゲティング

放出制御

放出コントロールに優れ(安定性、安全性の向上)、血中滞留性の向上(薬効の持続に繋がる)

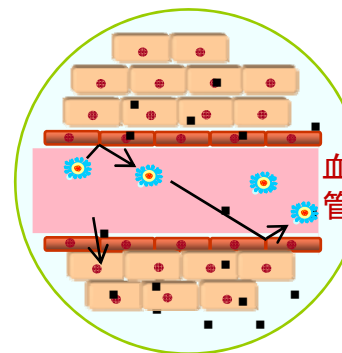


注: ¹PEG: ポリエチレングリコール

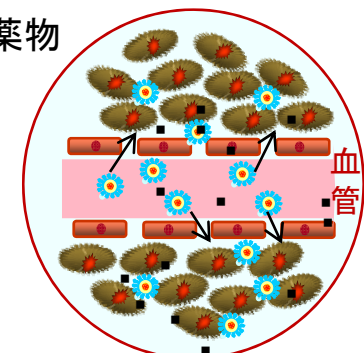
ターゲティング

がん組織の特性を捉えたミセル化ナノ粒子のがん部位への集積メカニズム

正常部位



がん部位



・: 通常薬物
・: ミセル

VS.

➤ 正常部位において、ミセルは血管の隙間を通過しにくい、通常薬物はミセルよりもサイズが小さく、血管の隙間を通過し正常な組織にも到達する。一方でがん組織で多く形成される新生血管では、形成する細胞同士の間隔が正常部位と比べて広がる傾向があり透過性が高いと考えられている。ミセルはこの血管の隙間(200-300nm)を通過し、がん組織に到達する(EPR効果: Enhanced permeation and retention effect)

システムデザイン

	特長	形状
NanoCap®システム ➤ 物理吸着型 NK105(パクリタキセルミセル) 化粧品 ➤ 静電結合型 タンパク質、siRNA	難溶性薬物の溶解性向上	ポリエチレングリコール (親水性) ポリアミノ酸 (疎水性) 20-100nm
Medicelle®システム ➤ 化学結合型 NC-6004 NC-4016(ダハプラチン誘導体ミセル) NC-6300(エピルビシンミセル) ドセタキセルミセル ボルテゾミブミセル	血液中の滞留性向上	
NanoCoat®システム ➤ センサー結合型 (Active Targeting) 抗体、ペプチドなど	特定部位へのターゲティング能力強化	
ADCM (Antibody/Drug-Conjugated Micelle) <u>NanoCapとMedicelleシステムの組み合わせ</u> ➤ センサー修飾薬物結合型 (Active Targeting) センサー: 抗体、ペプチドなど	多くの薬物を標的部位に効率よくターゲティング	

ビジネス戦略



事業戦略

POC医薬品

市場

市販品や臨床途上の医薬品

ファーマコ・カインेटクスを改良して治療域を広げ、新しい薬効と用量・用法を確立する

アンメットニーズと市場の拡大

治療目的に応じた医薬品とし、グローバル展開を目指す

自社開発 & 提携

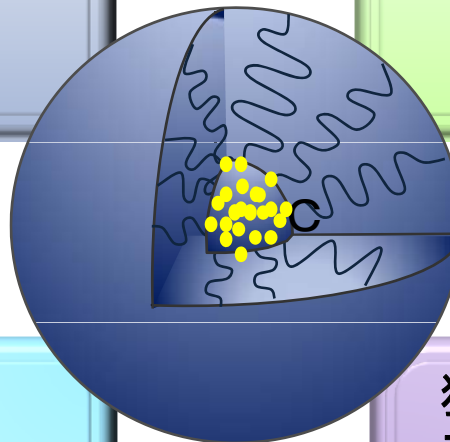
自社開発/共同研究開発/ ライセンス提携

自社開発を重視しつつ、提携を進め経営バランスを保つ

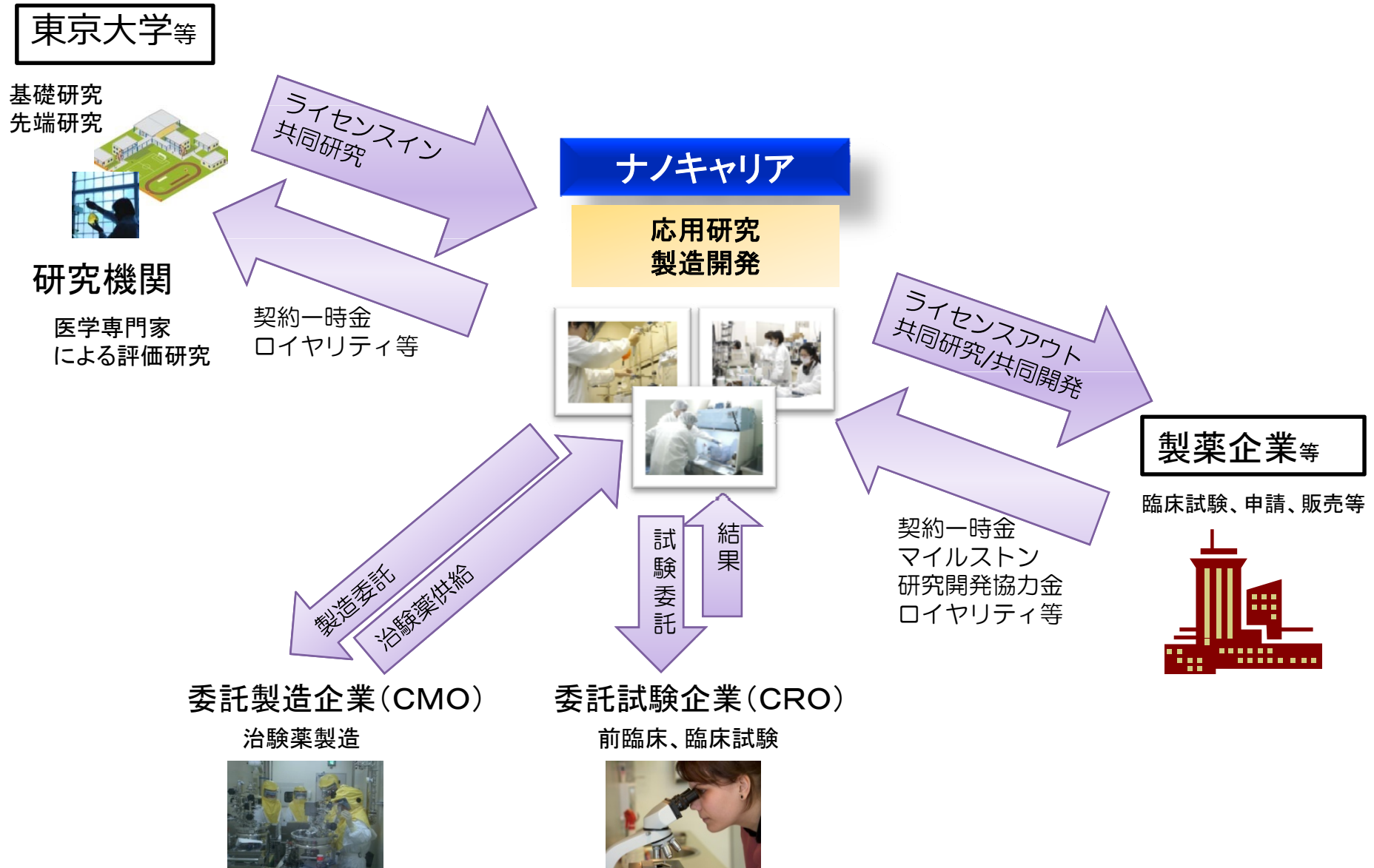
知的財産

独占性の確立 ライフサイクルマネージメント

- ・ 特許による基盤技術の優位性を確保
- ・ 参入障壁を構築する
- ・ 特許期間の延長を確保する



ビジネスモデル



トピックス
2013年度上期(含む10月)



主要なIR情報

15

公表日	概要
2013. 5. 7	NC-6300/K-912 国内Phase I 試験 IND申請
2013. 5. 13	米レギュラス社とマイクロRNA治療薬に関するFS(フィージビリティースタディー)開始
2013. 5. 20	核酸送達用ポリマーの試薬販売に関する日油株式会社との非独占ライセンス契約締結
2013. 5. 30	NC-4016 米国Phase I 試験 IND申請
2013. 6. 19	核酸デリバリー用ミセル プロトタイプ確立 NanoFect™
2013. 6. 20	信越化学工業株式会社との共同研究契約締結
2013. 6. 24	NC-6004 米国 Phase Ib/II 試験 IND申請
2013. 8. 12	京都大学との共同研究契約延長
2013. 9. 17	台湾OEP社の製造子会社OP Nano社への出資決定
2013. 9. 24	NC-6004 台湾OEP社との中国のライセンス領域許諾に関する覚書締結
2013. 9. 30	株式会社アルビオンと新たな共同研究契約締結
2013. 10. 7	国内及び海外における新株式発行及び海外における株式売出しの決定 (グローバルオファリング)
2013. 10.18	新生「エクラフチュール」美容液 発売 (販売 アルビオン)

1.共同研究契約締結

16

2013年5月13日

米レギュラスとマイクロRNA治療薬に関するフィージビリティースタディ開始

レギュラス : マイクロRNA分子を当社に提供
ナノキャリア : マイクロRNA分子の製剤化



両者で協力し前臨床試験実施する予定

**効率的な全身投与システムの開発に、
ミセル化ナノ粒子技術が貢献するものと期待**

Regulus Therapeutics, Inc.

マイクロRNAを標的とする革新的な医薬品の探索と開発をリードするバイオ医薬品企業。学術関係者の幅広いネットワークと連携し、Alynham PharmaceuticalsやIsis Pharmaceuticalsが培ってきたオリゴヌクレオチド創薬開発の専門知識を有効活用し、レギュラスは、がん、線維症、C型肝炎や代謝性疾患など、いくつかの分野でマイクロRNA治療薬の臨床開発を進める予定で、この分野でアストラゼネカ、グラクソスミスクライン、サノフィなどとの戦略的提携を進めています。

2.共同研究契約締結

17

信越化学工業株式会社との資本提携及び
ミセル化ナノ粒子の材料であるコポリマーに関する共同研究契約締結（2013年6月20日）



➤信越化学工業は2012年11月の第三者割当増資及び
その後の既存株式購入により6.68 % (2013年10月末現在) 保有の株主となる

➤良質なコポリマーの量産技術の確立及び競争的コストの実現に
よるミセル化ナノ粒子技術の活用範囲の拡大を目指す

3.出資および開発覚書締結

2013年9月17日

台湾O E P社の製造子会社OP Nano社への出資決定

- OEP社が製造子会社として設立したOP Nano社（台湾）に対する出資契約を締結し、OP Nano社に出資することを決定
⇒10月初旬にNT\$（台湾ドル）29.5百万の出資を実行

【OP Nano社の事業内容】

ミセル化ナノ粒子製剤製造の他、新薬・バイオシミラーなどの（受託）製造

＜製造工場＞

投資総額	: NT\$1,000百万	（工場建設に関連する設備等を含む）
工場完成時期	: 2016年12月予定	
延床面積	: 8,900m ²	
場所	: Huwei, Yunlin, 台湾	

**NC-6004製剤の
供給体制が整う**

2013年9月24日

ライセンス許諾領域を中国にも拡大する覚書締結

- 膵臓がんを対象に、台湾、香港、シンガポールで実施を計画しているNC-6004のPhaseIII 臨床試験の対象に中国本土を追加することを合意。
- 併せて、中国をライセンス領域として追加許諾することに伴い、ライセンス契約の改定を念頭に経済条件（一時金、マイルストーン、ロイヤリティー）の交渉を行い、2年以内に正式な契約を締結することを合意。

4.共同開発契約締結

株式会社アルビオンとの共同開発製品発売



「エクラフチュール」

2013年10月18日発売開始

ALBION

化粧品メーカー「アルビオン」との共同開発品

新処方
アルビオン厳選の植物成分

「強き生命力のブドウ」
リュウキュウガネブ
＜エビヅル葉エキス＞



「神様からの贈り物」
クバスター
＜テオブロマグランジフロム種子脂＞



ミセル化により、皮膚浸透性と滞留性を改善

- ◆想定数量を大幅に上回り、昨年発売した同価格の美容液と比較すると3倍以上の出荷
- ◆各店ともアルビオンの美容液発売月の過去最高記録を更新
- ◆@コスメ 美容液部門 第1位 （発売開始1カ月）

2013年9月30日

株式会社アルビオンと新たな共同開発契約締結

育毛剤、乳液などの新たな化粧品分野で共同開発および事業化について契約

5.グローバルオフリングによる資金調達

20

自社開発資金の確保

調達額 8,650,656,000円

国内バイオテック企業として初となるグローバルオフリング成功



新株予約権発行や個人向けの国内公募増資に加えて、
国内外の機関投資家からの公募調達の道を開く

世界を魅了する製品開発を目指して

➤グローバル化のための知名度向上

グローバルな事業展開を目指して活動を推進中。米国での臨床開発を開始しており、新たな海外の機関投資家層を開拓し、日本から発信するナノテクノロジーとして、世界での知名度を向上させる

➤自社開発は重要な経営戦略

より良い付加価値を有する製品に育て、結果として最良の経済条件を勝ち取る

➤資金使途

自社開発の展開費用、さらには、世界の手製薬メーカーが注目する従来にない「ベスト・イン・クラス」の次世代医薬品候補開発のための研究費

2013年10月7日新株式発行の決定（国内一般募集及び海外募集）

当社普通株式33,600株（国内：3,000株、海外30,600株）

発行価格 1株26,8000円

払込金額 1株25,7460円

●上記の他、オーバーアロットメントによる国内及び海外売出しに関連して行われる第三者割当増資により合計6,300株（払込金額最大1,621,998,000円）を上限として普通株式が発行される可能性がある

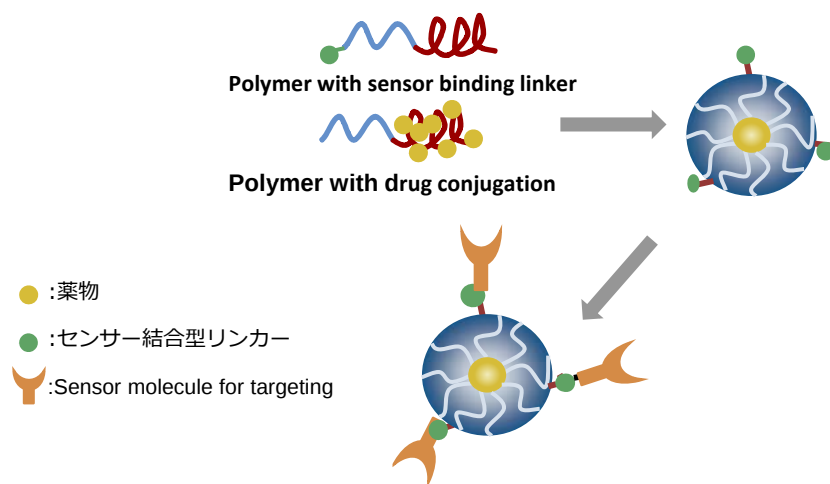
新規開発パイプライン 進捗状況



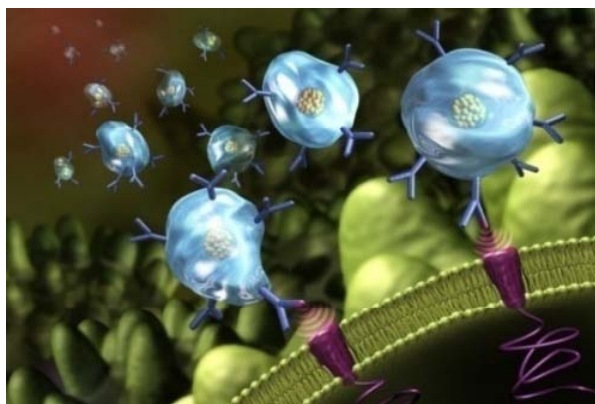
1. 次世代医薬品候補の研究開発 Antibody/Drug-Conjugated Micelle (ADCM)

性能と生産性を両立した次世代ADC

日・欧・加・中・豪で特許成立



ADCMイメージ図



製剤学的特徴

薬物の安定性を保持

ポリマーを2種類利用することにより、効率よく調製が可能

1粒子内の薬物量が多い

1ミセル粒子内に数百個の薬物を内包可能

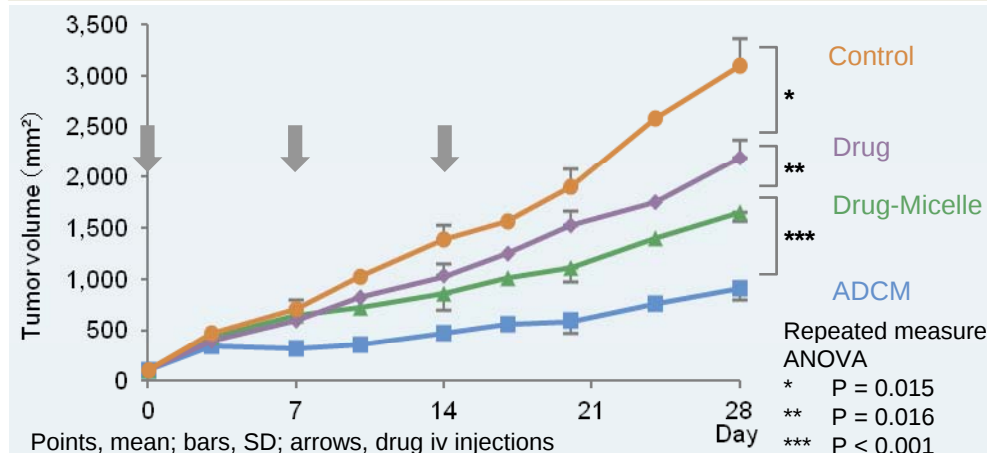
センサー量は少量で有効

1粒子のセンサー量は数個で十分なターゲティングが可能

無限の組合せが可能

センサーは抗体のみならず、タンパクやペプチドが結合でき、薬剤は低分子化合物からタンパク、核酸のような高分子化合物までデリバリーできる

ADCMの胃がんにおける抗腫瘍効果 (in vivo study)



2. 次世代医薬品候補の研究開発 核酸ミセル プロトタイプ完成

siRNAなど

長所

- 究極の分子標的薬
- 副作用がなく高活性

短所

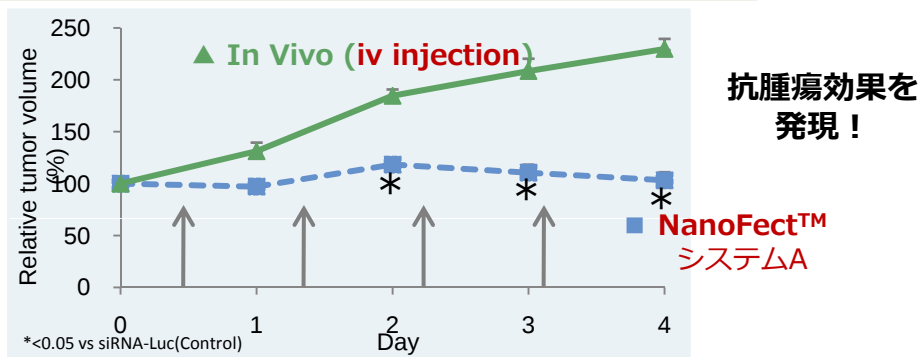
- 生体内で非常に不安定
- 水溶性高分子のため、薬効を示す細胞内に入らない

1. siRNAを医薬品とするには送達技術が必須である
2. 細胞内まで入れることができる技術は数多くあるが、細胞質内にsiRNAを効率良く放出できる技術は未だない

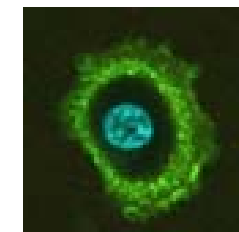
NanoFect™

1. 生体内での安定性を向上し、血中を長時間循環する (特許権確保済)
 2. 標的細胞内に入り、細胞質内で放出するため効果を発現する
プロトタイプ"NanoFect™"を完成
- システムA：細胞内に取り込まれやすく、細胞質内に効率よく移行する (自社技術)
 - システムB：細胞内A T Pを利用してsiRNAを放出する (東京大学技術)
 - システムC：血中滞留性に優れた (東京大学技術)

システムAによるsiRNA Delivery



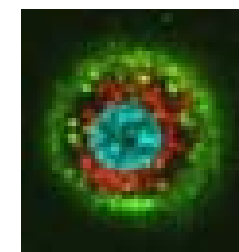
Active型システムAによる siRNAの細胞質内デリバリー



Active型 システムA
-siRNAを細胞に添加
抗体 (緑) が細胞表面
に結合した



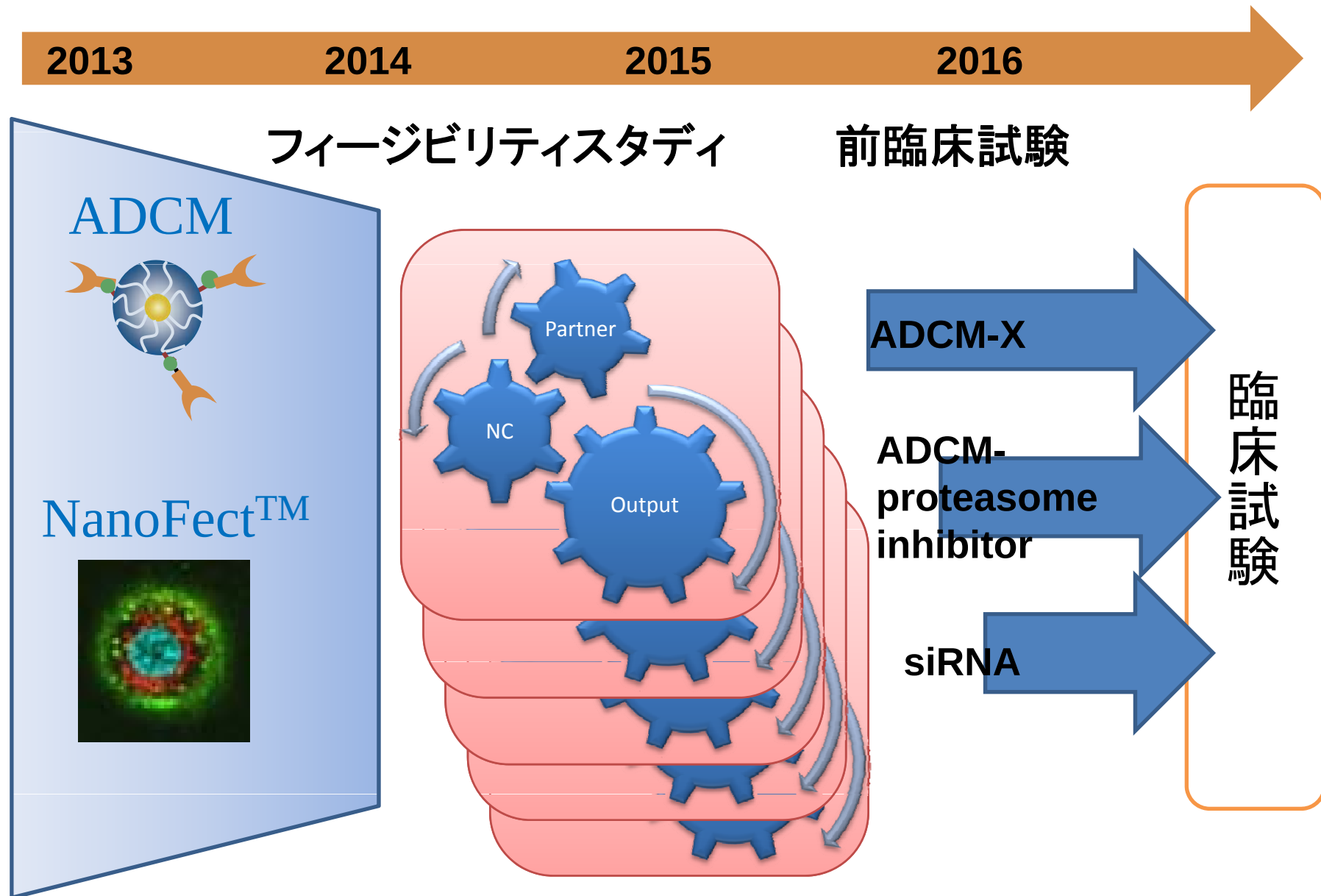
30分後、ミセルが
エンドサイトーシス
された (黄色)



75分後、siRNA (赤色)
がエンドソーム脱出し
細胞質内に移行

Active機能を
を付与

3. 新規開発パイプライン計画 フィジビリティスタディーからライセンス契約へ

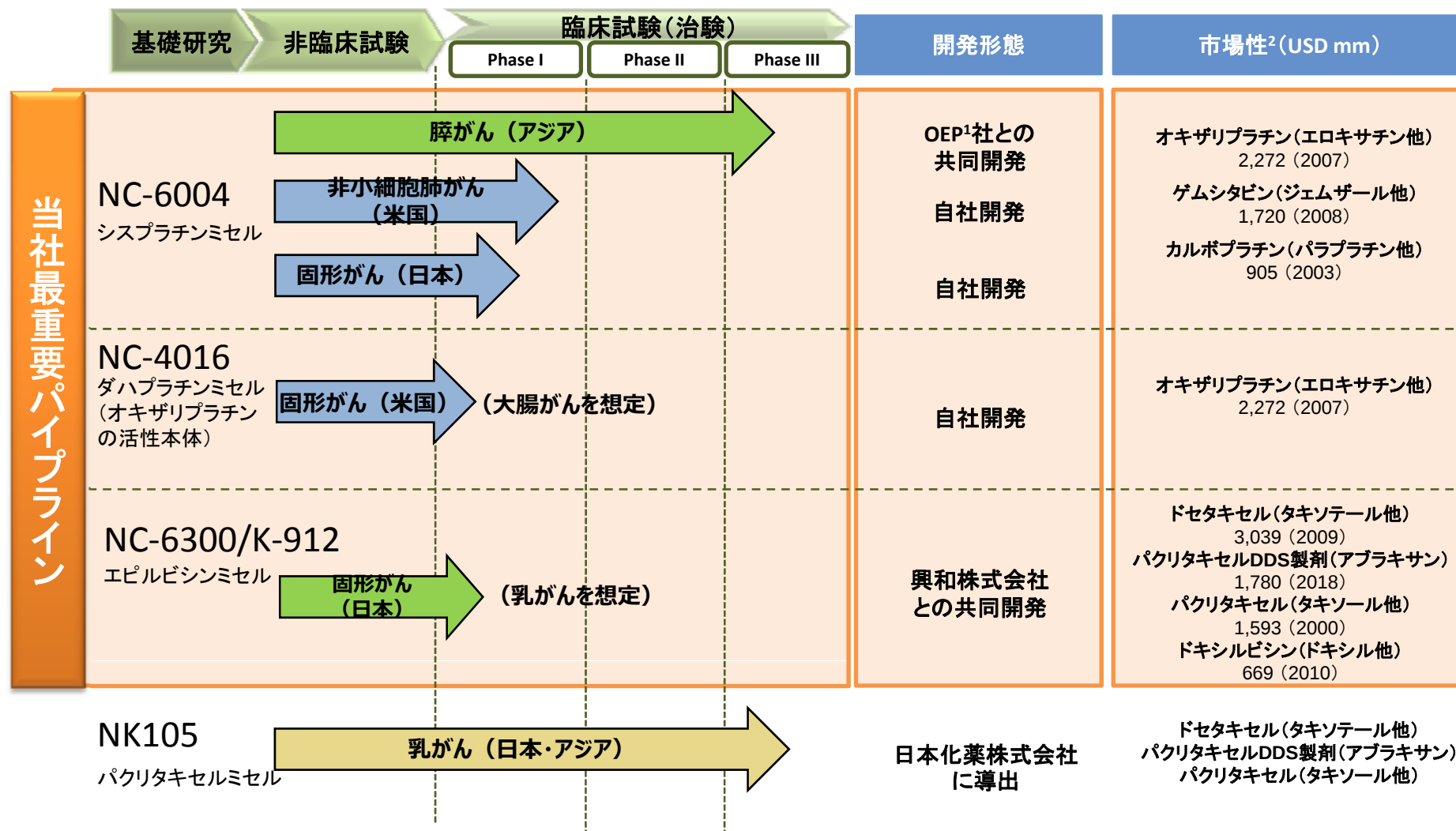


主要パイプライン 進捗状況



主要パイプライン進捗と開発状況

凡例: 自社開発 共同開発 開発権導出により他社が開発



注: ¹OEP: Orient Europharma Co., Ltd.

²類似剤のピーク時年間世界売上高(EvaluatePharma推定値。各剤の全適用・グローバルでの売上高が対象。括弧内は達成年を示す)

NC-6004 (ナノプラチン®)の開発

27

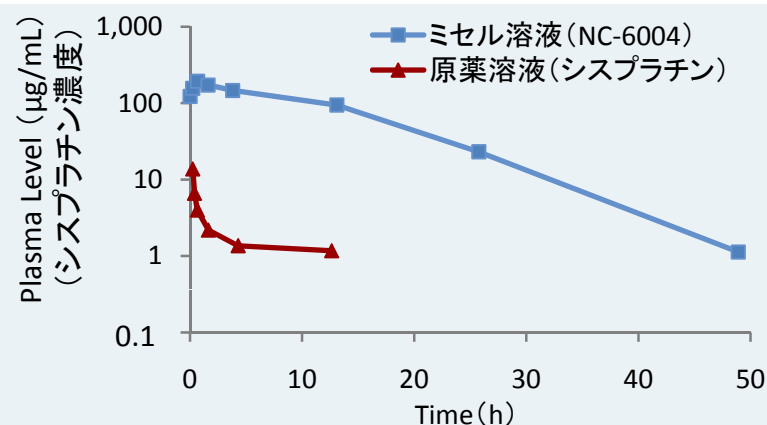
シスプラチン製剤の課題

- シスプラチンはがん治療のベースである化学療法の中心的薬剤として、多くのがん腫（例：卵巣がん、頭頸部がん、非小細胞肺癌、胃がんなど）の標準治療レジメンに採用されている
- シスプラチンは毒性（腎臓毒性、消化器毒性、神経毒性）が強く、毒性の発現のために治療が継続できないことががん治療上の問題となっている
- 投与に長時間を要するため、入院治療となる
- Bristol-Myers Squibbはシスプラチンの副作用を軽減したカルボプラチンを開発したが、有効性も減弱したため、シスプラチンを凌駕できていない
(カルボプラチンのピーク時売上高USD905m/2003年¹⁾)

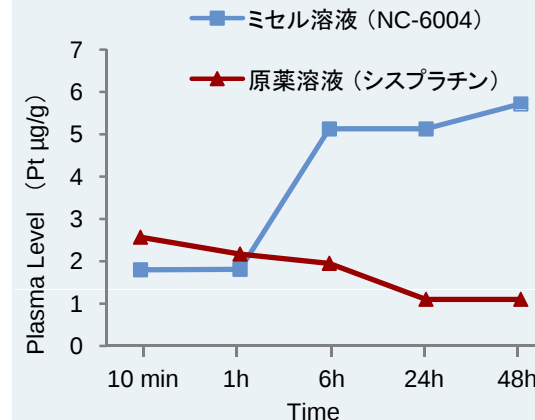
注¹EvaluatePharma推定値

ミセル化で問題解決を図る

NC-6004の血中滞留性



NC-6004のがん患部における血漿中濃度



NC-6004（ナノプラチン®） アジアPhase I/II 臨床試験結果および開発状況

アジアPhase I/II試験（局所進行性または転移性膵がん；ゲムシタビンとの併用）の結果を、2013年10月に日本がん学会/日本癌治療学会で報告

安全性

➤ 臨床的に特徴のある意義が認められた

- シスプラチンに特有の腎障害、消化管毒性、神経障害、聴覚障害などは、発生頻度・程度ともに低い
 - 文献値や複数のがん専門医の意見と比較し、臨床的に十分に意味のある差別化ができると考えられた
- 大量の電解質補液の投与（Hydration）なしで、シスプラチン製剤で知られている腎障害は効果的に軽減できる

有効性

- Phase I/II試験 OS¹中央値：8.2カ月、PFS²中央値：3.8カ月
- 既存治療（アブラキサン+ゲムシタビン）の文献値と比較してほぼ同等であった。

- 有効性に関する考察および改善策：当該試験ではシスプラチンを用いる標準治療で行われる一般的な大量の電解質補液の投与（Hydration）処置を行わずに実施したため、NC-6004投与時に軽い腎障害が検知された。その結果、NC-6004の投与量を半減する措置が7件の症例で実施されたことが影響している可能性が考えられる。Phase III臨床試験においては、少量のHydrationを追加することで、有効性データの向上を図る

利便性

- 副作用予防のための投薬処置削減の可能性示唆
- 投与時間短縮による外来治療の可能性示唆

- 患者さんのQOL向上、費用負担軽減
- 医療費削減

NC-6004開発状況

アジアPhase III を台湾／シンガポール／香港において近く開始予定。中国本土へも拡大

米国 非小細胞肺がん Phase Ib/II 試験実施中

日本 Phase I 試験実施中

NC-6004（ナノプラチン®）の臨床的特徴 他の標準療法との比較

29

適応	レジメン	発現する主要な毒性					その他
		腎毒性	消化管 毒性	神経 毒性	骨髄 抑制		
開発中	NC-6004 + ゲムシタビン	✓					➤短時間・少量のHydrationが必要
非小細胞肺がん	シスプラチン + ゲムシタビン	✓	✓	✓	✓		➤長時間・大量のHydrationが必要
非小細胞肺がん、 膀胱がん	アブラキサン + ゲムシタビン			✓	✓		➤溶解・調整の複雑な手間
膀胱がん	FOLFIRINOX ¹		✓	✓	✓		➤46時間の点滴静注による拘束 ➤体力がある患者に限定

注：✓マークの記載がない箇所についても、毒性の発現が全くないわけではない

¹ FOLFIRINOXは、4剤 (Oxaliplatin, Leucovorin, Irinotecan, 5-FU) の混合治療

NC-4016 ダハプラチン誘導体ミセルの開発

30

オキサリプラチン製剤の課題

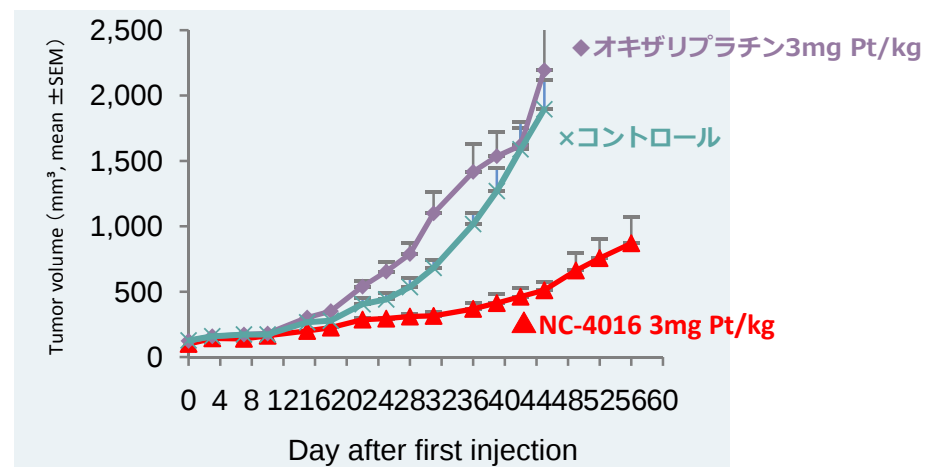
- オキサリプラチンは、抗がん剤5-FU/LVとの併用で大腸がんの標準的薬剤として世界的に成功を収めている
- オキサリプラチンはデビオファーム社によって開発され、サノフィ・アベンティス社及びヤクルト本社によって市販されており、ピーク時年間世界売上高USD2,272mm（2007年）¹を達成している
- 末梢神経障害「手足のしびれ」が治療中止・中断の主要な要因となっている

注¹EvaluatePharma推定値

ミセル化で問題解決を図る

動物モデルでの抗腫瘍効果 (in vivo study)

Mean Tumor Volume in Subcutaneous PC-3 Tumor in Nude Mice Treated With NC-4016 Q7Dx4

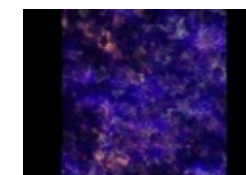


ダハプラチンミセルのがん組織への集積画像

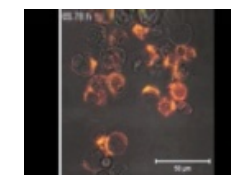
M. Murakami, H. Cabral, Y. Matsumoto, S. Wu, M. R. Kano, T. Yamori, N. Nishiyama, K. Kataoka, Improving drug potency and efficacy by nanocarrier-mediated subcellular targeting. Sci. Transl. Med. 3 (64) 64ra2 (2011)



血管内



がん組織



がん細胞内

※ポリマーの外側が緑、内側が赤に発色する蛍光物質を結合。ミセルを形成すると外側の緑のみが見えるが、ミセルが崩壊すると内側の赤が見えるようになる

米国 Phase I 試験実施中



・MDアンダーソンがんセンター

NC-6300/K912 エピルビンミセルの開発

31

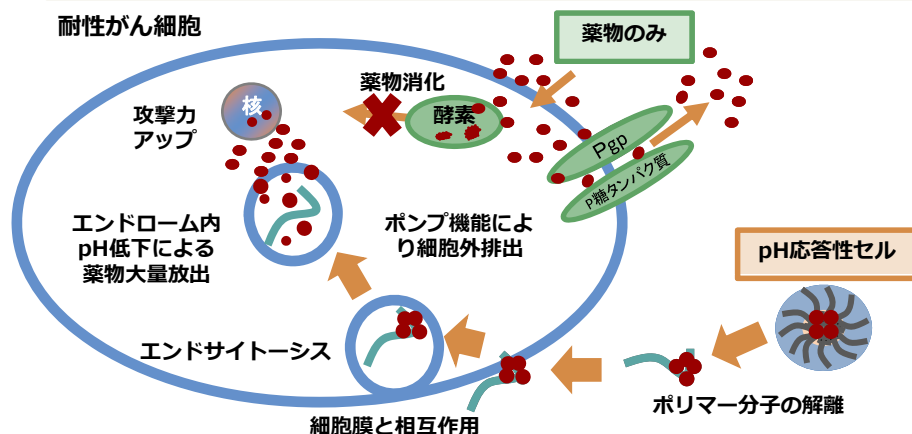
エピルビン製剤の課題

- 急性白血病、悪性リンパ腫、乳がん、卵巣がん、胃がん、肝臓がん、膀胱がんなどに用いられ、併用、単独など投与方法もさまざまで、広い適用を持っており、その中でも特に乳がんの治療において重要な役割を担っている
- アントラサイクリン系のエピルビンは、心毒性が強く、投与中止もしくは投与制限の要因となる
- アントラサイクリン系のドキソルビシンをリポソーム化したドキシル®は手足症候群、間質性肺疾患、肺塞栓症などの副作用がある（ピーク時年間世界売上高USD669mm（2010年）¹）

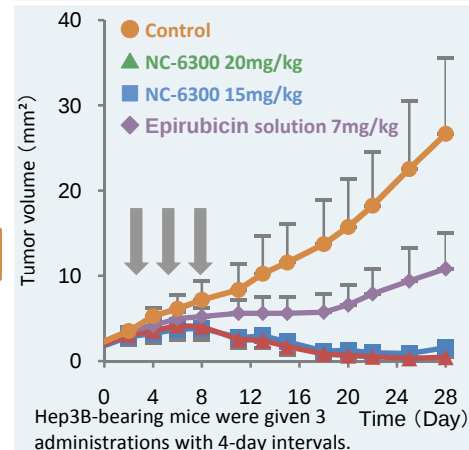
注1EvaluatePharma推定値

ミセル化で問題解決を図る

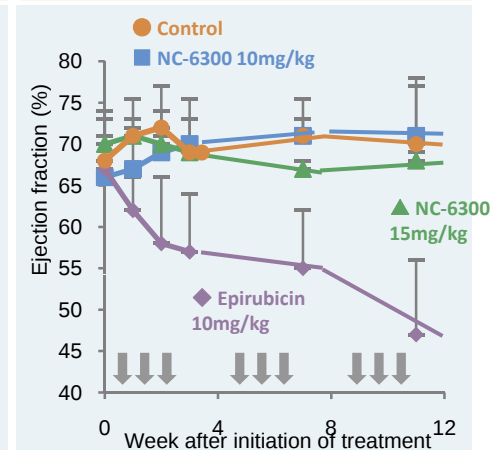
pH応答性機能を付加した細胞内デリバリーメカニズム



抗腫瘍効果



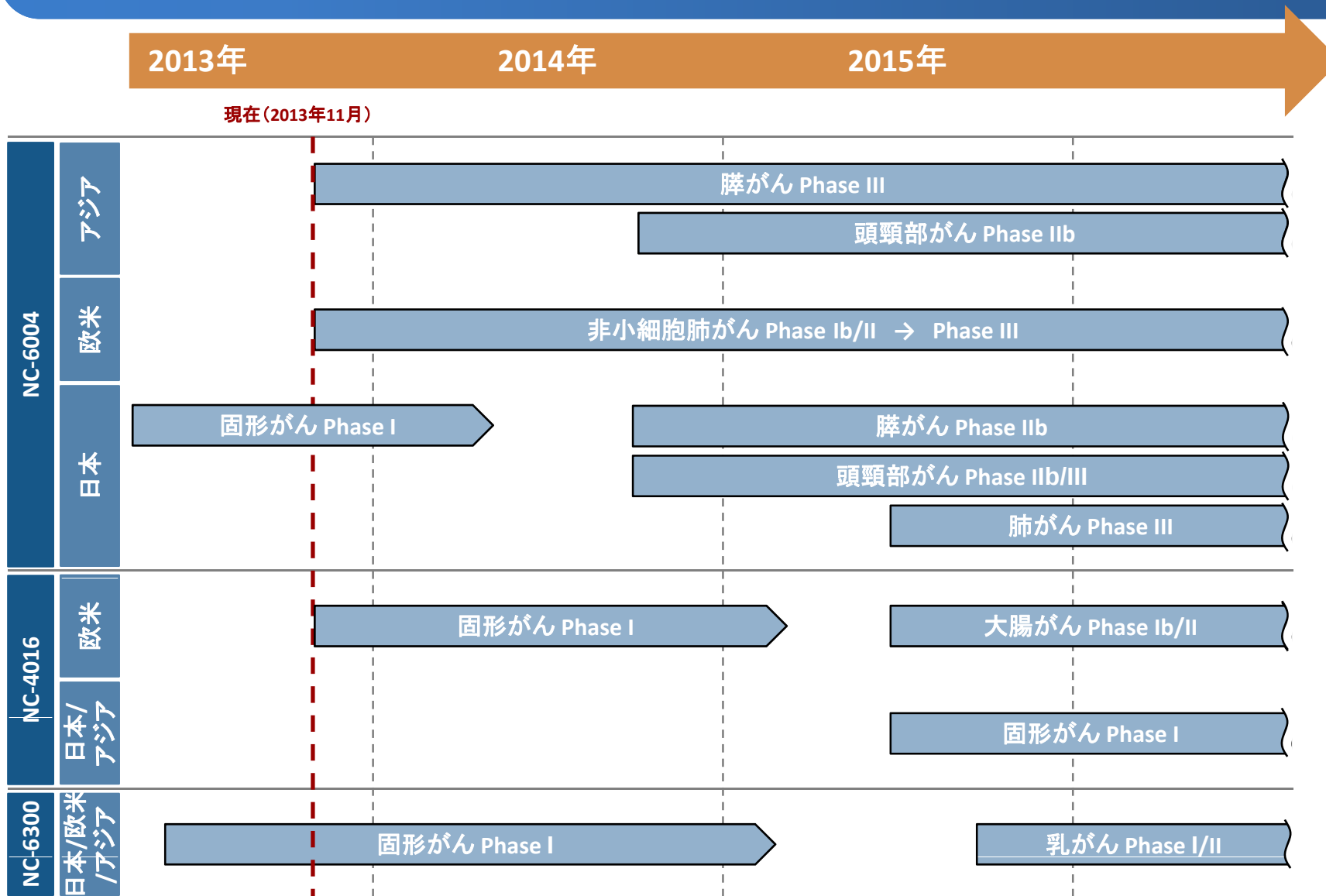
心拍出力への影響



日本 Phase I 試験実施中

主要パイプライン: 今後の臨床試験計画

32



注: 本頁は現時点の計画であり、開始・終了時期、臨床試験期間等に変更となる可能性があります

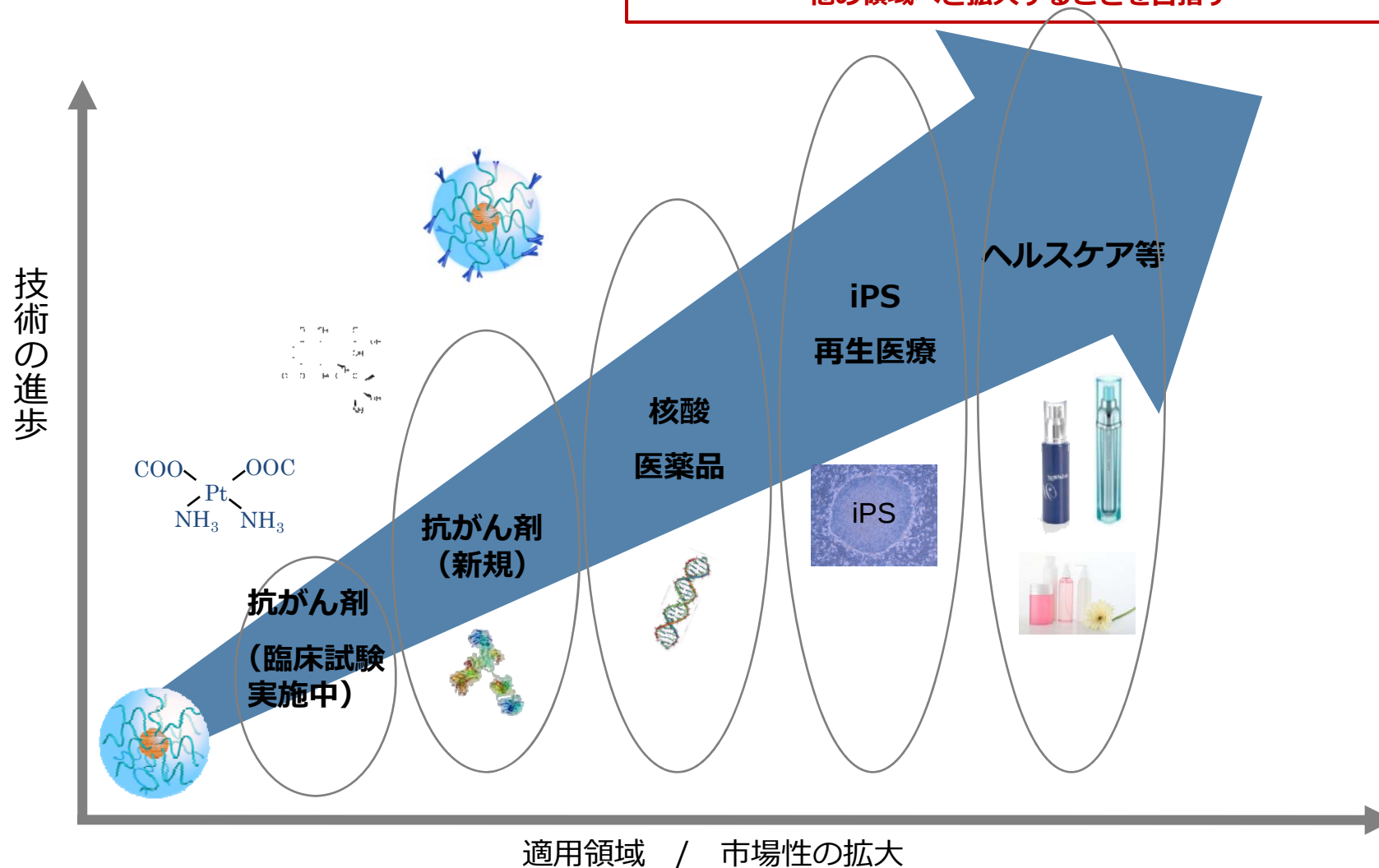
将来の構想



ミセル化ナノ粒子技術を用いた新展開

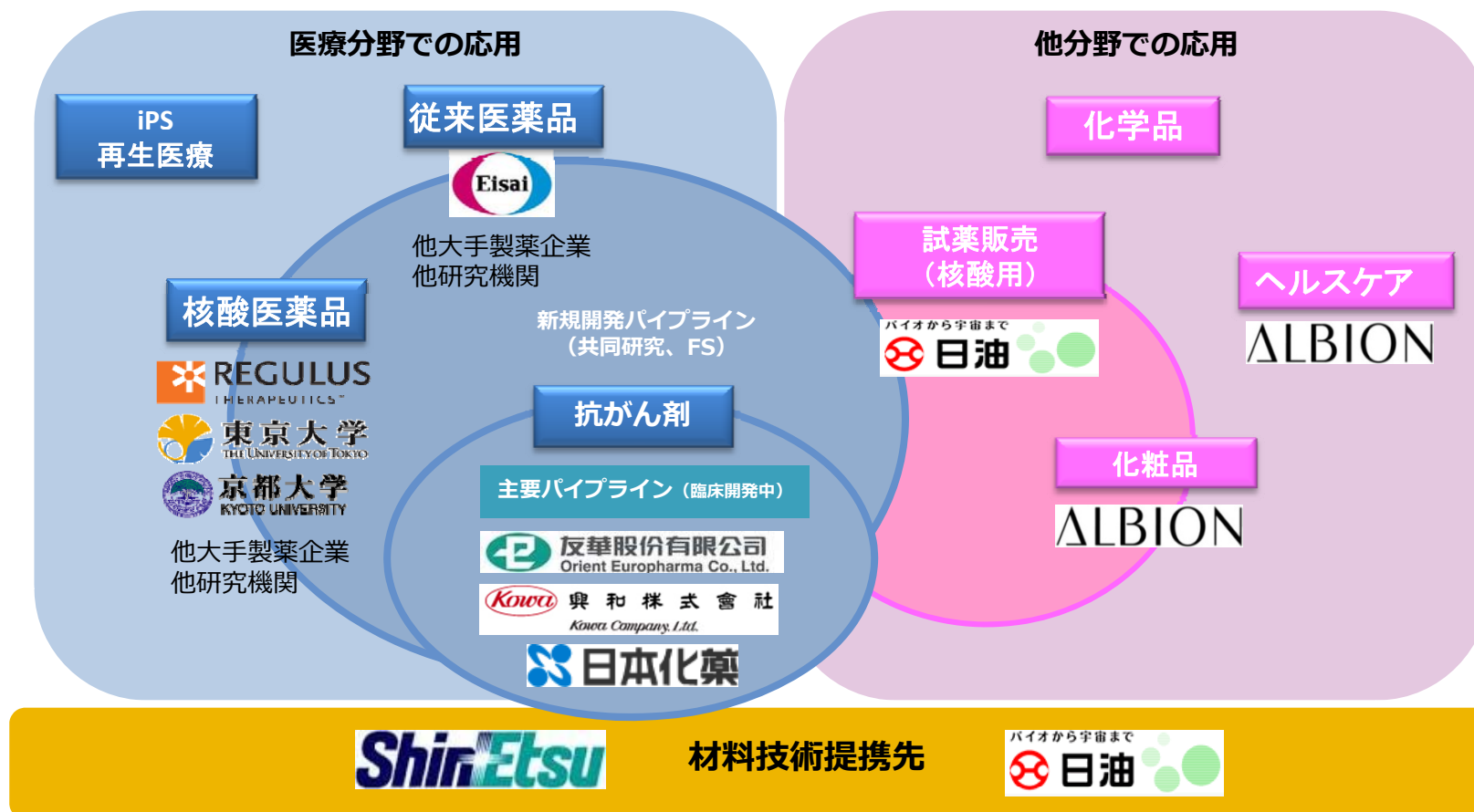
34

従来のミセル化ナノ粒子技術をADCMに進化させるとともに
適用領域も抗がん剤を中心とした医薬品から
他の領域へと拡大することを目指す



新領域におけるパートナーシップ

医療分野ではコア技術を元に医薬品候補品の改良・最適化によりパイプラインを拡充、他分野においては、原材料費のコストダウンにより、応用範囲の拡大を図る



<参考資料>

平成26年3月期 第2四半期
決算概要



損益計算書

37

第2四半期累計実績は売上高及び売上総利益が前年度を大きく上回ったが、研究開発の進捗に伴い費用が増加したために営業損失等が増加。なお、当初予想からは改善した。

単位:百万円	平成25年3月期 第2四半期（累計）	平成26年3月期 第2四半期（累計）
	実績	実績
売上高	99	325
売上原価	88	102
売上総利益	10	223
販売管理費	277	724
（うち研究開発費）	(95)	(489)
営業利益	△266	△501
経常利益	△266	△436
四半期純利益	△268	△437

貸借対照表

38

資産合計は、主に新株予約権の行使による現金及び預金の増加に伴い170百万円増加。負債は、主に転換社債型新株予約権付社債の転換により539百万円減少。

単位:百万円	平成25年3月期末	平成26年3月期第2四半期末		
	金額	金額	構成比 (%)	増減額
流動資産	5,473	5,625	97.4	152
固定資産	132	150	2.6	17
資産合計	5,606	5,776	100.0	170
流動負債	149	125	2.2	△23
固定負債	1,055	540	9.3	△515
負債合計	1,205	665	11.5	△539
純資産合計	4,400	5,110	88.5	709
負債純資産合計	5,606	5,776	100.0	170

キャッシュ・フロー計算書

39

研究開発費の増加に伴いキャッシュアウトが増加したものの、主に定期預金の満期到来による収入及び新株予約権の行使による収入により、現金及び現金同等物は前期末に比べ9.86億円増加（なお、現金及び預金の残高は52億超）

単位:百万円		平成25年3月期 第2四半期（累計）	平成26年3月期 第2四半期（累計）	増減額
	営業活動によるキャッシュ・フロー	△367	△475	△108
	投資活動によるキャッシュ・フロー	△27	782	810
	フリー・キャッシュ・フロー	△394	306	701
財務活動によるキャッシュ・フロー		33	625	592
現金及び現金同等物の増減額		△361	986	1,348
現金及び現金同等物の四半期末残高		1,419	4,440	3,020

今期見通し

40

単位:百万円	平成25年3月期 (第17期) 実績	平成26年3月期 (第18期) 予想※	
		3/19公表	9/10修正
売上高	373	297	416
営業利益	△526	△1,238	△1,174
経常利益	△432	△1,240	△1,176
当期純利益	△484	△1,262	△1,198

※グローバルオフリングに伴う株式交付費等は含んでおらず、これを含め見通しの数値は様々な要因により変更される可能性がある。

ありがとうございました



本資料で記述している業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、様々な要因の変化により実際の業績は記述している予想とは大きく異なる結果となる可能性があることを御承知おき下さい。

お問い合わせ先
ナノキャリア株式会社 社長室 電話03-3548-0217